

「高年大学」での講義

12月9日午後と11日午前、名古屋市高年大学鯉城(こじょう)学園で講義した。鯉城学園は「高齢者の生きがいがづくりと、地域活動の核となる人材の養成を目的として」、1986年に開学した。現在、4コース760人の定員で、「60歳からの学び 仲間づくり 社会参加」を進めている。

写真下は伏見ライフプラザ7階の学園事務室前である。講義は8階の教室で行った。昨年につき、2回目だ。専門講座「地域コース」の2クラス80数名の学生さんたちに講義した。

5日のシンポジウムとともに、こちらの講義も入院中に気になっていた。なんとか退院して、高年大学の皆さんに90分の講義ができ、ほっとしている。はじめは緊張気味だったが、いつもの調子が出てきた。講義を熱心に聴いて、私の寒い「ダジャレ」を大いに笑ってもらった。講義後には、温かい拍手までいただき、感謝・感激である。

入院前に送付した講義要旨のはじめのところを紹介しよう。

今日の講義は「名古屋のまちづくりと都市魅力」としました。じつは私の最終講義は「地域から現代社会を考える」が演題でした。足もとの地域、とりわけ名古屋から現代社会が抱える諸問題にアプローチするというものです。

「地域」を学ぶ高年大学の皆さんですので、まちづくりや都市魅力に焦点をあて、大都市名古屋を点検していきます。まず、まちづくりの諸説や名古屋の評価などを紹介し、名古屋のまちづくりを過去から現在へと振り返ります。名古屋の現状を検証し、課題を提起したいと考えています。

昨年度の講義内容とあまり変わらないが、この1年間の「成果」を講義に反映させた。今年は戦後70年ということで、「時間軸」という視点を強調した。8月に西三河のケーブルテレビ・キャッチの特別番組「戦後70年 未来へ生きる私たちへ」を映像も交えて紹介した。名古屋と西三河の歴史的なつながりについて、さらに調べていきたい。

(2015年12月13日)

